

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	1. 本事業では、上位目標として「実施地の予防センターを中心とした保健、衛生業務従事者（以下従事者）と主婦等の住民への教育、研修を通じて、母子健康に影響を及ぼす性感染症（以下 STD）の知識普及と予防意識の向上を含む適切な予防体制を整え、それらの感染率を減少させる。」ことを設定し、以下要旨を上位目標達成への個別具体的な事業目標及び方策と規定している。 ①被研修住民に STD 予防の研修を実施し、STD の知識の定着とその予防意識を向上させる。 ②被研修従事者に STD 予防の研修を実施し、自身の STD の知識の定着とその予防意識を向上させると共に、住民研修スキルもその研修を通じ向上させ、①記載の目標実現に貢献させる。 ③実施地での①②記載の活動を通じて、予防研修教材を新たに準備させ同時に現地関係機関により独自に本事業内容相当する研修を計画、実施させる事で、本事業の実施地での自律的普及、展開を促進させる。 ④本事業と同時実施の団体自主事業（迅速診断キットによる STD 感染把握）に供される資機材を供与する。 2. 各事業目標達成度は概略以下の通りである。 ①住民研修は計画通り STD 感染予防に重要とされた3つのカテゴリーの住民層を対象に2か所の実施地で計7次に亘り開催され、各次の参加住民数は目標を上回った。また知識定着と予防意識向上も目標を達成し、これら参加住民が今後 STD 感染するリスクは抑制される。 ②従事者研修も計画通り実施され、参加者数は目標を上回り知識定着、意識向上も目標を達成した。また本研修を経て住民研修の講師は全て従事者が担当出来るまでになった。 ③研修教材は原案を団体より提示し、現地側と摺り合せて監修、修正を加え、実際に研修で試用し聴衆の反応を確認する事で今回の成案とし、上記3住民層向け教材成案を準備出来た。 現地関係機関による本事業内容に沿った独自研修実施は、HCMC で既に1回実施され、HCMC, BD 両市省で継続実施の計画を策定中であり目標を達成した。 3. 上位目標との達成度 ①母子健康に影響を及ぼす STD 感染率抑制は、現在世界で梅毒に感染した妊娠女子の死産含む不正常出産率は30-40%とされ（WHO 報告 2012）、本事業では研修参加女子数の同率数の不正常出産が抑制と推定される。 ②上記成果は、上位目標達成へのステップとして上記設定目標が有効であり、同時にその達成手段としても上記方策が有効である事を示し、今後はこの成果を上位目標の実現の参考とする。
(2) 事業内容	1. 実施概要 ①研修実施地：HCMC と BD の各サイト（添付地図参照）。 ②対象住民：高校生 青壮年男子勤労者 接客業女子従事者（接客女子）とそのパートナー ③工程：前表 2018 年 9 月-12 月の 4 月間に 3 回実施（2 週間/回） ④現地体制：カウンターパート（CP） 国立パスツール院 HCMC（PI） 支援 市立皮膚科病院（STD 担当病院） HCMC 実施機関 HCMC 市エイズ予防センター（PAC） BD 省 同 ⑤対象 STD：計画通り梅毒、淋病、クラミジア、B 型肝炎、GBS の 5 種 2. 住民研修 ①教材：テキストは STD の症状、予防解説を中心に 40-50 頁スライドとし、対象の各 3 住民層向けに内容を個別調整し、感染リスクの高い層へはアクセスすべき担当病院も掲載した。

・主要予防法の装着練習用コンドームと同練習台					
実施詳細 回毎	1 回目 高校生 9/10-21	2 回目 青壮年勤労者 10/22-11/2	3 回目接客女子等 12/10-21		
1 週目	BD 公立共学	BD 外資巨大工場	HCMC	市、地区病院	
2 週目	HCMC 私立共学	HCMC 現地資本中工場 外資巨大工場	BD	省都病院 地区病院	
日毎	曜	火曜	水曜	木曜	金曜
1, 2 回目	サイト視察等	従事者研修	住民 研修	まとめ	
3 回目	サイト視察等 従事者研修	(STD 感染 率把握 (自 主事業))			まとめ

②手順: 以下要領を基本に進行させ、各回状況により微調整した。

参加者案内 番号札付与	現地側挨拶 日本側挨拶 研修趣旨説明 同意書取得	事前 アンケート	STD 症状 予防 講義	質疑 応答	コンドーム 装着 練習	事後 アンケート	知識定着確認 少人数面談	番号札 筆記 用具 等回収
----------------	-----------------------------------	-------------	-----------------------	----------	-------------------	-------------	-----------------	------------------------

③アンケート: A4判1頁片面内に収まる量で現地語によりSTDの症状、感染経路、リスク、予防法の知識を問い、前後比較で知識向上が測れる様に質問を配置した。

④質疑応答: 双方向対話を促進させるために今回重点とし、皮膚科病院のSTD専門医等が対応した。

⑤少人数面談: 参加住民を4-5人づつ、現地従事者が直接面談し、講義内容の重要箇所の知識定着を確認した。

3. 従事者研修 ①教材: 住民研修にかける前に団体制作の教材原案を日越両者で検討し、現地側監修、補充修正を経て使用した。また現地従事者が講義を担当する場合、実際の講義練習に日本側も立会い、効果が上がる工夫を助言しスキル向上に努めた。

②手順: 上記全体手順だけでなく従事者が直接関与する各段階の詳細手順を相互確認し、担当者の配置を具体的に決めた。

③サイト視察: 日越両者で研修前日に予定会場サイトを事前視察し、立地、使用予定設備、機器類の稼働状態を確認し、参加者の動線も点検する事で、当日の実施が手順通り行なわれる事を担保した。またチェックリストを新たに作成し点検漏れの発生も未然に防ぐ手立てを講じた。

これら作業をOn Job Trainingとして共同で行なう事で現地側従事者への実際的な研修となり、後述現地側による早期の独自研修開催に繋げる事が出来た。

④アンケート: 住民研修と同様、事前事後アンケートで知識の向上を測定した。

⑤レーティング: 全体を通じ各従事者の知識、能力向上を、上位従事者が点数付けを行ない評価、向上の程度を数値化した。

4. 自律的継続、展開 ①教材初版制作: 上記作業を通じ各住民層向け教材準備され、実際の住民研修使用による検証を経て制作させた。

②本事業同内容研修実施と継続の予算措置の計画: 教材の住民研修使用時の評価を契機に、直ちに現地機関で独自予算による同内容研修実施が検討された。

③現地従事者による住民向け研修講師参加: 研修と教材内容手直しの進捗に伴い、従事者の講師参加を拡大させた。

④団体自主事業のSTD感染率把握で判明した感染者への、現地機

4. STD 予防啓発事業
の現地継続と陽性
者事後フォロー
下表の様に、予防
研修教材はスライド
版で目標の初版整備

を完了した。従事者の研修講師参加は HCMC が 5 人輩出し大幅超過達成、
独自予算による研修実施も HCMC が直ちに 1 件実施し達成した。

項目	目標	HCMC	BD	計
従事者、住民各層向け教材初版整備	完了	対象 3	層向教材	完了
従事者の研修講師参加	2 人	5 人	2 人	7 人
本事業内容に沿った独自研修計画	1 件	2 件	1 件	2 件
独自予算によるその研修実施	1 件	1 件	0 件	1 件

5. 資機材、消耗品供与 1 部変更分含め計画通り全て完了した。詳細を下
表に示す。

名称	数	供与予定先	今回実績
研修実施円滑化機材:バナー横断幕	2	HCMC, BD 省の病院, 予防センター	済 全体窓口 PI に実施開始前供与
同:移動用ラップトップパソコン 画像投影プロジェクター 移動用スクリーン 移動用アンプ, スピーカー	3	STD 担当病院 HCMC, BD 省の病院, 予防センター	同上
検体採取用資機材:検体保管冷凍庫 培養器 同変換プラグ, 降圧トランス	3	同上	済 全体窓口 PI に実施完了前供与 別買不要 内蔵品として装着済
診断用機材:血清分離器, 消毒可能計量ピペット	4	STD 担当病院 HCMC, BD 省の病院, 予防センター	同上
安全キャビネット(モバイル PCR 代替)	2	PI	同上
消耗品:採血注射器 迅速診断キット 6 種 血液寒天培地, 抗ウイルスシート	所 定 数	HCMC, BD 省の病院, 予防センター	同上

6. その他 ①高校生向けのこの種の研修は 10-20 年振りに、他住民向け研
修は今回が初実施とされ、会場では多くの参加者から本実施に感謝の言
葉が寄せられた。
②当初 STD 感染の高リスクグループは、確信犯的であり研修の速効効果
は薄いと推定した(申請書(3)(エ)1-2-1)。確かに今回 3 回目対象の接客
女子は同グループに近いせいか、研修のみでは効果は低かったが、面談
確認では他層と同様の向上が見られ、参加者からは逆に本研修に強い期
待が寄せられた。これは、自身の健康は勿論だが、今後生まれて来る子
供に STD 感染の影響が出る事だけは避けたいとの強い思いがその理由
であった(会場での聞き取り)。今後は接客女子の上記効果への当初の懸念
を払拭し、彼女らへの研修を STD 感染拡大予防の視点から、強化する事
が望まれる。

(4) 持続発展性	1. 事業継続体制整備 ①前述の様に既に接客女子向け研修はHCMCでは本事業内容による継続実施が現地予算で開始されており、事業継続は、本事業申請書(4)3②記載要点「従来の現地実績に沿う態様」に則って、現地従来体制をそのまま活用する事で開始されている。 ②また現地が自力継続するに当たり、開催時の会場準備に必要な前述事前チェックマニュアルを整備し、会場トラブルを未然に防止する手立ても準備した。 ③更にこの展開に当り、団体は今回使用教材の現地機関の本事業に沿った使用につき著作権等の主張をせず、今後現地側による状況に合せた改訂をも含めた無償使用を許諾して、現地の努力を極力支援する姿勢を表明し、現地側の賛同を得ている。 ④今後これを引続き展開させると同時に、HCMCでの青壮年男子勤労者、高校生向けへの拡大と、BDでも同様3つの住民層への継続展開を支援する事が重要となる。 2. 全土向け政策化 既に本事業の概要と成果につき、政府保健省で全土のSTD予防を管掌する中央エイズ予防センター(VAAC)、首都ハノイ市PACともその全土展開の協議を既に開始している。
------------------	---